鉢物向け八重系ブバルディアの選抜と周年栽培技術の開発

【背景と目的】

ブバルディアは伊豆大島の特産切花品目であり、これまでに農総研で東京オリジナルの切花用品種を複数育成し、産地への導入が進んでいる。

ブバルディアの鉢物はかつて東京都内でも生産されていたが、いずれも一重で使用可能な品種が少なく、出荷時期が短日期に限られ、価格が安定しないなどの要因により現在では全く栽培されていない。そこで、花き品目の新たな商品展開として、鉢物ブバルディアの開発に取り組む。

【研究概要】

（１） 農総研で開発した八重29系統について鉢物として評価を実施し、次のことが確認された。

① 系統19など一部系統で相対的に挿し木の増殖効率が高かった。

② 系統６などで挿し木後の苗の伸長が良好で、分枝性が優れ、節間が短いなど鉢物に向く性質が示された。

③ 系統６などで開花株率が高く、到花日数が短く、八重花出現率が高いなど相対的に開花特性が優れた。

④ 以上より系統19（15D203-7）は複数年度、複数の項目で優れ、鉢物向け品種として最も有望である。また系統26（15P105-16）などの３系統は次いで評価が高く、有望である。

（２） 周年出荷を可能とする栽培技術の開発

① 挿し木の天芽と節芽利用では、天芽挿しの方が高い増殖効率が得られ、４～８月の挿し木では６月が最も発根率が高く、高温期には活着が抑制された。

② 鉢上げ用土としては、作業性も加味するとパーライトを0.5～２割添加するのが栽培に適していた。

③ 「東京ダブルスター」シリーズでは、鉢サイズが３～５号、定植苗本数が１または３本の組合せのいずれでも栽培が可能であるが、いずれの鉢サイズでも３本植えで外観が優れていた。